

表紙・目次等

権利	Copyrights 日本貿易振興機構（ジェトロ）アジア経済研究所 / Institute of Developing Economies, Japan External Trade Organization (IDE-JETRO) http://www.ide.go.jp
雑誌名	イエメンものづくり：モノを通してみる文化と社会
発行年	2001
出版者	日本貿易振興会アジア経済研究所
URL	http://hdl.handle.net/2344/00017644

佐藤寛 著

イエメンものづくし

モノを通してみる文化と社会

イエメンものづくし

モノを通してみる文化と社会

目次

はじめに

第1章 かぶりモノ

マシャツダ(ターバン) 4

マシャツダはどこから来るのか 7

あたま布の使い道 9

コウフイーヤ(帽子) 13

イマーマ 16

ベレー帽 20

ベレー帽とイエメン近代史 22

第2章 覆うモノ

ヒジャーブ（ベール） 28

髪の毛を覆うモノ 30

顔を覆うモノ 33

身体を覆うモノ 36

バルトーの登場 40

視線の遮断 43

まなざしの力 45

黒子作用Ⅱ移動する隔離空間 47

ヒジャーブの遮るもの 51

第3章 着モノ

ザンナ（ワンピース） 56

背広とアラブ商人 59

腰巻きとシンドバードの海 63

ジャンビア 67

ジャンビアの品質 70

ジャンビアのアクセサリー 73

ジャンビアの禁制場所 75

第4章 食べモノ

サルタ鍋 80

指先の味覚 83

ホブズ 86

アシード 90

ハニードとミンディー 93

メインは食後に 96

ビスケット 99

第5章 噛みモノ「カート

こぶとり爺さん 104

カートの役割 106

カートの歴史 109

カート消費はなぜ増えたか 112

カート生産はなぜ増えたか 114

カートの弊害 117

カートの効用 119

カートの今後 121

第6章 飲みモノ

水 126

コーラ 130

紅茶 134

コーヒー発祥の地 137

コーヒー生産の現状 141

第7章 乗りモノ

出稼ぎ土産に4WD 148

ダバルの威力 150

アプー・ダッバ 153

ダッバープ 157

長距離バス 161

花嫁行列 164

第8章 焚きモノ

タバコ 170

水タバコ 173

香 177

第9章 回りモノ

タヌール 182

ガスボンベ 185

のろし 188

ライフル 193

銀 200

装飾品としての銀 203

通貨 208

紙幣 211

曜日市 215

行商人 217

ヒジュラ 222

第10章 困りモノ

南北分断 228

内 戦 231

無秩序 235

人質事件（イフティターフ） 238

新しい女性像 243

外国へのあこがれ 246

不良少女 249

付 録 主な記念日 254

初出一覧 254

参考文献 255

もっと知りたい人のために 255

あとがき 257

索引 259

イエメン全図



ルブ・アル・ハーリー砂漠地帯のサウジアラビアとの国境は未確定

著者紹介

さ　とう　ひろし
佐藤　寛

1957年生まれ

1981年　東京大学文学部社会学科卒業，アジア経済研究所入所

1985～88年　海外派遣員および在北イエメン(当時)日本大使館
専門調査員としてサナアに滞在

1991～92年　国立民族学博物館に出向

1997～99年　海外調査員としてサナア大学イエメン調査研究セ
ンターに駐在

現　在　経済協力研究部主任研究員

(主要著書)

『援助の社会的影響』編：アジア経済研究所，1994年

『イエメン　もうひとつのアラビア』著：アジア経済研究所，
1994年

『援助と社会の固有要因』編：アジア経済研究所，1995年

『援助研究入門　援助現象への学際的アプローチ』編：アジア
経済研究所，1996年

『援助の実施と現地行政』編：アジア経済研究所，1997年

『開発援助とバングラデシュ』編：アジア経済研究所，1998年

イエメンものづくり

モノを通してみる文化と社会　アジアを見る眼100

2001年3月30日発行©

著　者　佐藤　寛

発行所　日本貿易振興会アジア経済研究所

千葉市美浜区若葉3-2-2　〒261-8545

研究支援部　電　話　043(299)9735(販売)

FAX　043(299)9736(販売)

E-mail: info@ide.go.jp

http://www.ide.go.jp

印刷所　株式会社　三陽社

カバーデザイン　長峰亜里

落丁，乱丁はお取替え致します

無断転載を禁ず

ISBN 4-258-05100-4 C1233

地中海から太平洋まで、この広くアジアと呼ばれる地帯には幾十かの国がある。その大部分は第二次世界大戦以後、古い植民地体制から脱して新興の独立国になったものである。世界の人口の半ば以上のものがここにある。これらの新興国はそれぞれの立場に立って、建国創業の仕事に力をつくしている。

その業は果たして障害なく着々と進んであるか。だれもがこれに対して頭をかしげるであろう。そしてだれもがアジアは「流動的」であるという。

流動的とは何であるか。また何ではないか。いくたみの混みいった自体のなかを、一本の線が生々発展的に縫っているのも流動的である。経済は着々と成長し、政治は一つの体制のなかで徐々に整備されているような場合がそれである。

アジア諸国の大部分については、事態はこのように簡単ではない。もちろん、経済の場合には大きな発展・成長の芽生えがある。しかし、他面においてそれを抑御するものが力づよい。またおよそ発展や成長を考える場合、在来流行の理解によるパターンを以てするのが果たして正しいか、との疑問もでてくる。さらに政治体制については、イデオロギーの対立、複合民族国家における特殊なナショナリズムに伴う民族や種族間の戦争があつて、政治的安定はなかなか期すべくもない。独立国家の幼年期に伴う政治的、御製の未熟もまた考えられるべき大きな原因である。

こういう次第で、アジアが流動的であるとは、一つの混沌を意味するものといえようか。そしてその上に立っていかなる経済・社会・政治の体制が整いだされるのであろうか。この意味で二〇世紀後半のアジアは世界における「問題」、いな最も大きな「問題」である。

アジア経済研究所は、まさにこの「問題」の理解に向かつて、ひたすら前進をつづけている。われわれの期するところは、まさにそれぞれの国の現実に即した精確な知識を供しよう、そしてこの大きな「問題」について静かなサードピスをいたそうとするに尽きる。設立以来すでに七力年余り、専らそういう道を歩んできたし、今後もしそれに変わりはしない。このシリーズは、多くの研究や調査の報告書、現地調査を土台として、アジアについての解説書・教養書たることを目標とするものである。

一九六六年三月

アジア経済研究所 東 畑 精 一